

第 38 回 CDM 理事会傍聴出席報告

2008 年 3 月 24 日

社団法人海外環境協力センター

I. 理事会概要

1. 日時： 2008 年 3 月 12 日（水）～3 月 14 日（金）
（公開討議は 3 月 13 日、14 日に開催）
2. 場所： UNFCCC 事務局（ドイツ・ボン）
3. 議題：
 1. 理事会メンバーについて
 2. 議題の採択
 3. ワークプラン
 - a) 運営組織の信任手続
 - b) ベースライン・モニタリング計画の方法論
 - c) 植林・再植林プロジェクトに関する事項
 - d) 小規模 CDM プロジェクトに関する事項
 - e) CDM プロジェクト活動の登録に関する事項
 - f) CER 発行及び CDM 登録簿（レジストリ）に関する事項
 4. CDM 管理計画及び予算に関する事項
 5. その他 ((a) プロジェクトの地域分布、(b) DNA との関係、(c) DOE/AE との関係、(d) 利害関係者・各国・NGO との関係、(e) その他)
 6. 閉会



【運営組織の信任手続】

<ガイダンス事項>

- ・事務局で作成中の「有効化審査・検証マニュアル（VVM）」について、次回 EB39 までに作成作業を完了することとなった。
- ・国際認定フォーラム（IAF）より、亀山嘉和氏（JQA）が CDM 認定パネル（CDM-AP）のアドバイザー業務に携わることが承認された。
- ・CDM-AP メンバーの公募を実施（3 月 19 日～4 月 20 日）。

【ベースライン・モニタリング計画の方法論】

<新規方法論>

- ・承認（2 件）：
 - **AM0066**：“GHG emission reductions through waste heat utilization for charge pre-heating of raw materials in sponge iron manufacturing process”（スコープ：9（金属工業））<スポンジ鉄製造過程での原材料の加熱処理への廃熱利用による GHG 排出削減>
 - **AM0067**：“Methodology for installation of energy efficient transformers in a power grid”（スコープ：2（エネルギー供給））<発電所への省エネ転換機の導入>
- ・不承認（3 件）：
 - **NM0238**：“Point of use Abatement Device to Reduce SF6 Emissions in LCD Manufacturing Operations”
 - **NM0242**：“Methane Leak Reduction From Natural Gas Pipelines in Georgia”
 - **NM0245**：“The 220 MW Egiin Gol Hydroelectric power generation project in Mongolia (The Project

or Project activity)”

- ・方法論パネル（MP）にて再検討（1件）：
 - NM0249：“Reduction in Emissions in the Manufacture of Phosphogypsum-based Gypcrete Wall Panel by Gypcrete Building India Ltd. (GBIL)”

<承認済み方法論の修正>

- ・修正承認（6件）：
 - AM_REV_0073 (ACM0012)、AM_REV_0074 (ACM0006)、AM_REV_0075 (ACM0012)、AM_CLA_0063 (AM0034)、AM0037、ACM0014
- ・修正不承認（5件）：
 - AM_REV_0072 (ACM0006)、AM_REV_0076 (AM0019)、AM_REV_0077 (AM0036)、AM_REV_0078 (ACM0014)、AM_REV_0079 (AM0014)

<ガイダンス事項>

- ・SF6を取り扱う新規方法論提出に関するプロジェクト参加者向けガイダンスを採択。
- ・「追加性評価・証明ツール」の修正に関する議論は、より包括的な修正を行う必要があるため、次回 EB39（5月）に延期。
- ・「プロジェクト設計書記入ガイドライン」及び「新規方法論提案記入ガイドライン」の改訂案について、意見募集を実施（3月19日～4月30日）。
- ・「新規方法論提案記入様式」の改訂を承認。
- ・MPメンバーの公募を実施（3月19日～4月20日）。

【植林・再植林 CDM プロジェクトに関する事項】

<新規 AR 方法論>

- ・承認（1件）：
 - ARNM0032-rev：““San Carlos” Land Restoration Through Silvopastoral Systems”→（統合化）**AR-ACM0001：“Afforestation and reforestation of degraded land”**（スコープ：14（植林・再植林））<荒廃地での植林・再植林>（統合化（AR-AM0003 + ARNM0032-rev）に伴う、AR-AM0003 の撤回は、プロジェクト参加者の利便性を考慮し、EB43 にて実施されることとなった。）

<ガイダンス事項>

- ・大規模及び小規模 AR CDM プロジェクトの土地適格性の証明方法に関して、「AR プロジェクトの土地適格性の証明手続」を用いることにより、新規植林と再植林の区別は不要であることが明確化された。
- ・プロジェクトバウンダリーの定義付けに関する植林・再植林 CDM ワーキンググループ（AR WG）の提案について、再度検討を行うよう AR WG に要請。
- ・AR WG メンバーの公募を実施（3月19日～4月20日）。

【小規模 CDM プロジェクトに関する事項】

<新規 SSC 方法論>

- ・承認（1件）：
 - **AMS II.H：“Energy efficiency measures through centralization of utility provisions of an industrial facility”**（スコープ：4（製造業））<産業施設での公共施設の中央集中化を通じた省エネ手法>

<承認済み SSC 方法論の修正>

- ・修正承認（4件）：
 - AMS I.C.、AMS III.H.、AMS III.D.、AMS III.G.

<ガイダンス事項>

- ・小規模 CDM プロジェクトワーキンググループ（SSC WG）メンバーの公募を実施（3月19日～4月20日）。

【CDM プロジェクト活動の登録に関する事項】

<登録申請・レビュー要請案件（4桁の数値はプロジェクト参照番号）（ホスト国／投資国）[担当DOE]>

- ・登録承認：11件
 - “Power Generation by Waste Heat Recovery Project in Henglai Building Materials Co. Ltd., Yixing City, Jiangsu Province, P. R. China”（1380）（中国）[TÜV-SÜD]
 - “Jaroensompong Corporation Rachathewa Landfill Gas to Energy Project”（1413）（タイ/日本[三菱UFJ証券]）[DNV]
 - “Biomass generation project, in Sheyang county, Jiangsu province, P.R.China”（1366）（中国）[TÜV-SÜD]
 - “Shandong Gaotang 30MW Biomass Power Generation Project”（1375）（中国/英国）[TÜV SÜD]
 - “Yunnan Dali Yang_er 49.8MW Hydropower Project”（1388）（中国/日本[JCF]）[TÜV SÜD]
 - “Jinggangshan 36 MW Hydropower Project”（1400）（中国/オランダ）[BVC]
 - “Steam Optimization in Cooking Process in Paper Plant”（1403）（インド）[DNV]
 - “Carhuaquero IV Hydroelectric Power Plant”（1424）（ペルー/スペイン）[DNV]
 - “Pushihe Erji 10 MW Small Hydropower Project in Yunnan Province”（1430）（中国）[DNV]
 - “Aluhe 12.6 MW Small Hydropower Project in Yunnan Province”（1439）（中国）[DNV]
 - “4.5 MW Wind Power Project in Kadavakallu, Andhra Pradesh”（1131）（インド）[BVC]
- ・修正条件付登録承認：7件
 - “Someshwara small hydropower project (24.75 MW) in Karnataka, India”（1273）（インド）[DNV]
 - “Fundao-Santa Clara Energetic Complex Project (FSCECP)”（1279）（ブラジル）[BVC]
 - “Fuel switchover from higher carbon intensive fuels to Natural Gas (NG) at Indian Farmers Fertilizer Cooperative Ltd (IFFCO) in Phulpur Village, Allahabad, Uttar Pradesh by M/s Indian Farmers Fertilizer Cooperative Ltd (IFFCO)”（1289）（インド/スペイン）[DNV]
 - ““Waste Heat Recovery project” at Saraikela, Kharsavan, Jharkhand by M/s Kohinoor Steel Private Limited”（1296）（インド）[SGS]
 - “Power generation from waste heat of submerged arc furnaces”（1324）（インド）[TÜV-SÜD]
 - “Zhongzhou 16.5 MW Hydropower Project”（1333）（中国/スウェーデン）[TÜV-SÜD]
 - “5 MW renewable energy project for a grid system at Rohru Tehsil, Shimla District in Himachal, India”（1363）（インド）[DNV]
- ・レビュー実施決定：7件
 - “UHE Mascarenhas power upgrading project”（1232）（ブラジル）[SGS]
 - “Power generation from waste heat of new DRI kilns at JSPL”（1292）（インド）[BVC]
 - “24.75 MW Ranganathaswamy Mini Hydrel Project, Karnataka, India”（1345）（インド）[TÜV-NORD]
 - “Flare gas recovery project at Hazira Gas Processing Complex (HGPC), Hazira plant, Oil and

Natural Gas Corporation (ONGC) Limited” (1354) (インド) [DNV]

- “Koppal Green Power Limited Biomass Power Project” (1383) (インド) [TÜV-Rheinland]
- “Biomass Based Power Project of Balaji Agro Oils Ltd.” (1398) (インド) [SGS]
- “CEMEX Costa Rica: Use of biomass residues in Colorado cement plant” (1405) (コスタリカ) [SGS]

・登録不承認（レビュー実施の結果）：4件

- “Tradewinds Methane Extraction and Power Generation Project” (1285) (マレーシア/オランダ) [DNV]
- “Fuel Free Electricity to Grid” (1331) (インド) [BVC]
- “Reducing the Average Clinker Content in Cement at CEMEX Mexico Operations” (1356) (メキシコ) [SGS]
- “Bundled Wind Power Project of Jelu Special Self-Governing Province in Korea” (1377) (韓国) [KFQ]

<ガイダンス事項>

- ・登録・発行チーム（RIT）への業務指示（TOR）の1年間延長を決定。
- ・RITメンバーの公募を実施（3月19日～4月20日）。
- ・プロジェクト参加者が「フィージビリティスタディー報告書」からのデータを用いる場合、担当DOEが当該内容を保証するよう要請した。
- ・「レビューに関する手続の明確化を記したCDM手続規則パラグラフ41（第8版）」を承認。
- ・プロジェクト参加者が登録済みプロジェクトからの撤退を望む場合の手続について、事務局の取るべき対応について検討を行った。

【CER発行・CDM登録簿に関する事項】

<CER発行要請レビュー（4桁の数値はプロジェクト参照番号）（ホスト国／投資国）[担当DOE]>

・発行承認：16件

- “RSCL cogeneration expansion project” (0127) (インド/オーストリア・英国) [SGS]
- “Quimobásicos HFC Recovery and Decomposition Project” (0151) (メキシコ/日本[電源開発]・オランダ・英国) [TÜV-SÜD]
- “HFC23 Decomposition Project of Zhejiang Juhua Co.,Ltd, P. R. China” (0193) (中国/日本) [JMD 温暖化ガス削減、日揮、丸紅、大旺建設] [SGS]
- “AWMS GHG Mitigation Project, MX05-B-12, Sonora, México” (0204) (メキシコ) [DNV]
- “AWMS GHG Mitigation Project, MX05-B-14, Jalisco, México” (0257) (メキシコ) [DNV]
- “Nueva Aldea Biomass Power Plant Phase 1” (0258) (チリ/日本[東京電力]・英国) [SGS]
- “Trupan Biomass Power Plant in Chile” (0259) (チリ/日本[東京電力]・英国) [SGS]
- “LDEO Biomass Steam and Power Plant in Malaysia” (0395) (マレーシア/カナダ・ドイツ) [DNV]
- “Demand side energy conservation & reduction measures at IPCL . Gandhar Complex” (0445) (インド) [DNV]
- “Jilin Taonan Wind Power Project” (0599) (中国/オーストリア) [SGS]
- “HFC23 Decomposition Project at Zhonghao Chenguang Research Institute of Chemical Industry, Zigong, SiChuan Province, China” (0767) (中国/イタリア) [DNV]
- “Zhongjieneng Suqian 2*12MW Biomass Direct Burning Power Plant Project” (0819) (中国/スイス・スウェーデン・英国) [SGS]
- “Incomex Hydroelectric Project” (0968) (ブラジル/英国) [DNV]
- “CAMIL Itaquí Biomass Electricity Generation Project” (0231) (ブラジル/オランダ・ドイツ)

[TÜV-SÜD]

- “15.4 MW wind farm at Satara District, Maharashtra” (0593) (インド/英国) [DNV]
- “Sahabat Empty Fruit Bunch Biomass Project” (0288) (マレーシア/英国) [SGS]
- レビュー実施決定：1件
 - “Onyx Alexandria Landfill Gas Capture and Flaring Project” (0508) (エジプト/スペイン・フランス) [TÜV-SÜD]

<ガイダンス事項>

- 「レビューに関する手続きの明確化を記した CDM 手続規則パラグラフ 65 (第 5 版)」を承認。

【その他】

- 次回 DNA フォーラム開催：2008 年 4 月 14 日～15 日 (ドイツ・ボン) (CDM ジョイントワークショップも併催)
- DOE/AE フォーラム議長との意見交換 (有効化審査時に、DOE 側より不承認と判断され、理事会 (事務局) に登録申請されない案件に関する情報等を、理事会に提供した。)
- 次回 EB39 開催日程：2008 年 5 月 14 日～16 日 (ドイツ・ボン)

4. 出席者

(網掛部は欠席理事)

出身地域枠		理事 (Member) 【10名】	代理理事 (Alternate Member) 【10名】
国連 地域 グループ (5地域)	アフリカ	Mr. Samuel Adeoye Adejuwon (ナイジェリア/環境省 環境評価局気候変動ユニット部長補佐)	Mr. Kamel Djemouai (アルジェリア/国土整備・環境省 環境協力部 部長補佐)
	アジア	Mr. Rajesh Kumar Sethi (インド/環境森林省 気候変動部部長、インド DNA 事務局)	Ms. Liana Bratasida (インドネシア/環境省 地球環境・国際協力担当審議官)
	東欧	Ms. Natalia Berghi (モルドバ/生態天然資源省 水文気象庁 国際課 課長)	Ms. Diana Harutyunyan (アルメニア/自然保護省自治体暖房・温水供給局、アルメニア DNA 事務局)
	ラテンアメリカ・カリブ海	Mr. Hugh Sealy (バルバドス/環境省コンサルタント、持続可能な開発委員会 議長)	Mr. José Domingos Gonzalez Miguez (ブラジル/科学技術省 省庁間気候変動委員会 事務局長)
	西欧 その他	Ms. Ulrika Raab (スウェーデン/エネルギー庁上級アドバイザー)	Mr. Martin Hession (イギリス/環境・食糧・地域省)
附属書 I 国 (Annex I)		Mr. Lex de Jonge (オランダ/住宅・国土計画・環境省)	Mr. Pedro Martins Barata (ポルトガル/環境省コンサルタント、環境研究所)
		Mr. Akihiro Kuroki (黒木 昭弘 氏) (日本/(財)日本エネルギー経済研究所 研究理事)	Ms. Jeanne-Marie Huddleston (カナダ/外務国際貿易省 気候変動部 上級政策アナリスト)
非附属書 I 国 (Non-Annex I)		Mr. Philip M. Gwage (ウガンダ/水・土地・環境省 気象局)	Mr. Xuedu Lu (呂 学都 氏) (中国/科学技術部農村社会開発司 部長)
		Mr. Paulo Manso (コスタリカ/環境・エネルギー省、コスタリカ DNA 事務局)	Mr. Hussein Badarin (ヨルダン/環境省 気候変動ユニット長)
小島嶼国連合 (AOSIS)		Mr. Clifford Mahlung (ジャマイカ/地方政府・環境省 気象庁)	H.E. Tuiloma Neroni Slade (サモア/国連サモア代表部 大使)

オブザーバー参加：10名

Ⅱ. 第 38 回 CDM 理事会報告

1. 理事会メンバーについて

- ・ 欠席メンバー（1名）¹：Berghi 理事（モルドバ）

2. 議題の採択

- ・ 異論なく採択。

3. ワークプラン

3. (a) 運営組織（OE）の認定

<ガイダンス事項>

- ・ 有効化審査及び検証作業の品質向上、一貫性保持を促進させる目的で作成が進められている「CDM 理事会有効化審査・検証マニュアル（“CDM EB validation and verification manual”, CDM VVM）」の作成進捗状況に関して、事務局より報告がなされた²。理事会は EB39（2008 年 5 月）にて、事務局に対し、CDM VVM 作成作業の完了を最優先で進めることを要請した。
- ・ 理事会は、国際認定フォーラム（International Accreditation Forum, IAF）からの代表として、亀山嘉和氏（JQA）が、CDM-AP へのアドバイザー業務を担当することに同意した。また、IAF による CDM-AP への協力について、感謝の意が表された。
- ・ 2 名の CDM-AP メンバーが退任するのに伴い、メンバー公募（call for experts）を 2008 年 3 月 19 日～4 月 20 日の期間にて実施することとなった。次回 EB39（2008 年 5 月）にて、メンバー選任に関し、理事会で検討を行うこととなっている。

<スケジュール>

- ・ 次回第 34 回 CDM 認定パネル（CDM-AP34）開催日程：2008 年 4 月 14 日～16 日

3. (b) ベースライン・モニタリング計画の方法論

<方法論パネルの報告>

- ・ 第 31 回ベースライン・モニタリング方法論パネル（MP31）³が 2008 年 2 月 4 日～8 日に開催され、MP 議長の黒木理事が報告を行った。

<新規方法論>

- ・ 承認：2 件
 - **AM0066**：“GHG emission reductions through waste heat utilization for pre-heating of raw materials in sponge iron manufacturing process”⁴（スコープ：9（金属工業））<スポンジ鉄製造過程での原材料の加熱処理への廃熱利用による GHG 排出削減>（EB38 報告書 [Annex1](#)）

¹ Berghi 理事の他、Miguez 代理理事（ブラジル）も、公開討議（3/13～14）には出席せず。

² 進捗状況について、理事からは着実に作業を進めている、との概ね好意的な反応が示された。

³ EB34（2007 年 9 月）にて選出された MP メンバー、Luis de la Torre 氏が MP31 より審議に参加。

⁴ NM0231：“Waste heat utilization for charge pre-heating in sponge iron”（作成者：Hare Krishuna Metallic Private Limited, India）

➤ **AM0067 : “Methodology for installation of energy efficient transformers in a power distribution grid”⁵** (スコープ : 2 (エネルギー供給)) <発電所への省エネ転換機の導入> (EB38 報告書 [Annex2](#))

- ✓ 理事会は本方法論案を承認するとともに、MP に対し、「もし、プロジェクト実施前の 3 年間、当該地域における転換機の導入率が既に 20%以上の場合、プロジェクトと同じ技術と見なす。(=20%未満でなければ、プロジェクト実施ができない)」という適用条件の再検討を行うよう、要請した。
- ✓ 本方法論案審議にあたって、転換機導入率 20%という設定は低すぎる、との意見が複数の理事より寄せられた。転換機導入率の 20%は保守的な数値を意図してプロジェクト参加者が設定したものであり、MP 議長の黒木理事は 20%と算出する根拠が明確ではないことを明らかにした上で、本方法論を実際に適用するケースによって、修正や逸脱等の措置により、適用条件の 20%は変更の余地がある旨を認める発言をしている。

・不承認 : 3 件

- NM0238 : “Point of use Abatement Device to Reduce SF6 Emissions in LCD Manufacturing Operations”
- NM0242 : “Methane Leak Reduction From Natural Gas Pipelines in Georgia”
- NM0245 : “The 220 MW Egiin Gol Hydroelectric power generation project in Mongolia (The Project or Project activity)”

・MPでの再検討 : 1件

- NM0249 : “Reduction in Emissions in the Manufacture of Phosphogypsum-based Gypcrete Wall Panel by Gypcrete Building India Ltd. (GBIL)”

・その他 (MP31 での予備勧告⁶) : 7 件

- NM0244 : “TNUIFSL- Municipal Street Lighting and Water Pumping Efficiency Improvement Project”
- NM0247 : “Manufacturing and servicing of refrigerators using low GWP refrigerant by M/s Videocon Appliances Ltd”
- NM0248 : “Project for useful use of landfill gas actually being flared substituting natural gas”
- NM0250 : “Fès Waste Water Treatment Plant (WWTP) with sludge treatment and biogas recovery & utilization for electricity generation at Fès city, Morocco”
- NM0251 : “South Korea SF6 capture and recycling project”
- NM0252 : “Replacement of SF6 with FK 5-1-12 as a cover gas in the magnesium industry”
- NM0253 : “Destilmex fuel ethanol project”

<承認済み方法論の修正要請>

・修正承認 : 6 件

- AM_REV_0073 (ACM0012 : “Consolidated baseline methodology for GHG emission reductions for waste gas or waste heat or waste pressure based energy system” (エネルギーシステムに基づく廃ガス・廃熱・廃圧のための GHG 排出削減のための統合化方法論))

⁵ NM0243 : “Installation of amorphous transformers in Shandong power distribution grid” (作成者 : 日立製作所)

⁶ プロジェクト参加者は方法論パネル (MP) からの予備勧告を受け取った後 4 週間以内に、MP に対し追加説明を提出することができる。

(修正内容：適用条件の拡大)

- AM_REV_0074 (ACM0006：“Consolidated methodology for grid-connected electricity generation from biomass residue” (バイオマス残渣を利用したグリッド接続発電のための統合化方法論))

(修正内容：新シナリオの追加 (発電要量が大きく、効率性の高い新規燃料もしくは混合燃料コージェネプラントの導入))
- AM_REV_0075 (ACM0012：“Consolidated baseline methodology for GHG emission reductions for waste gas or waste heat or waste pressure based energy system” (エネルギーシステムに基づく廃ガス・廃熱・廃圧のための GHG 排出削減のための統合化方法論))

(修正内容：適用条件の拡大)
- AM_CLA_0063 (AM0034：“Catalytic reduction of N2O inside the ammonia burner of nitric acid plants” (硝酸工場のアンモニア燃焼設備内での触媒利用による N2O 削減))

(修正内容：硝酸生産以外の全ての変数 (variables) の日々のモニター間隔をさらに短縮すること) (EB38 報告書 [Annex3](#))
- AM0037：“Flare (or vent) reduction and utilization of gas from oil wells as a feedstock” (原料としての油井からのフレア (もしくは排出口) の削減及びガスの有効利用)

(修正内容：適用条件の拡大) (EB38 報告書 [Annex4](#))
- ACM0014：“Mitigation of greenhouse gas emissions from treatment of industrial wastewater” (産業廃水処理からの GHG 排出低減)

(修正内容：適用条件の拡大) (EB38 報告書 [Annex5](#))

・修正不承認：5 件

- AM_REV_0072 (ACM0006：“Consolidated methodology for grid-connected electricity generation from biomass residue” (バイオマス残渣を利用したグリッド接続発電のための統合化方法論))

(修正要請内容：新シナリオの追加)
- AM_REV_0076 (AM0019：“Renewable energy project activities replacing part of the electricity production of one single fossil-fuel-fired power plant that stands alone or supplies electricity to a grid, excluding biomass projects” (電力グリッド接続または非接続の単一の化石燃料発電所による発電量の一部を代替する再生可能エネルギープロジェクト))

(修正要請内容：適用条件の拡大)
- AM_REV_0077 (AM0036：“Fuel switch from fossil fuel to biomass residues in boilers for heat generation” (熱生成ボイラーにおける化石燃料からのバイオマス残渣への燃料転換))

(修正要請内容：適用条件の拡大)
- AM_REV_0078 (ACM0014：“Mitigation of greenhouse gas emissions from treatment of industrial wastewater” (産業廃水処理からの GHG 排出軽減))

(修正要請内容：適用条件の拡大)
- AM_REV_0079 (AM0014：“Natural gas-based package cogeneration” (天然ガス利用のパッケージ・コージェネレーション))

(修正要請内容：適用条件の拡大)

<ガイダンス事項>

- ・ACM0006「バイオマス残渣を利用したグリッド接続発電のための統合化方法論」で用いられている用語、「参考プラント ('reference plant')」について、「国及び地域の産業セクターの一般的に導入されている新たなバイオマス残渣を利用したコージェネレーション発電プラント (“commonly

installed new biomass residue fired co-generation power plants in the respective industry sector in the country or region”）」と定義付けることを、理事会は確認した。

- ・理事会は、SF6 を取り扱う新規方法論提出に関するプロジェクト参加者向けガイダンスを採択。SF6 消費量の意図的な増加の可能性、ベースライン及びプロジェクトの排出量算定にあたってはキーパラメータの直接モニタリングを行うこと、不確実性の説明を行うこと、をガイダンスでは定めている。
- ・「追加性評価・証明ツール (“Tool for assessment and demonstration of addiotionality”）」の修正に関する議論は次回 EB39 (2008 年 5 月) に先送りとなった。
 - ✓ ここ最近の EB では、追加性ツールに関する修正が毎回のように行われてきたが、より包括的な内容の見直しをすべき、との観点から、MP で更に検討を重ね、EB で議論を行うこととなった。
- ・「プロジェクト設計書記入ガイドライン (“Guidelines for completing the project design document (CDM-PDD)”）」及び「新規方法論提案ガイドライン (“Guidelines for completing the proposed new baseline and monitoring methodologies (CDM-NM)”）」の改訂案について、2008 年 3 月 19 日～4 月 30 日の期間、意見募集 (call for public comments) を実施することに合意した。
- ・理事会は、「新規方法論記入様式 (“the form for proposed new methodologies (CDM-NM)”）」の改訂を承認。(EB38 報告書 [Annex6](#))
- ・MP メンバーの公募を実施 (公募受付期間 : 2008 年 3 月 19 日～4 月 20 日)。次回 EB39 (2008 年 5 月) にてメンバーの選考を予定。
- ・事務局より、省エネ案件に関する口頭報告がなされた。現在事務局では省エネ案件促進に向けたツールやガイダンスの検討を行っており、次回 EB39 (2008 年 5 月) にて報告がなされることとなった。また、MP では (今回承認された AM0067 の他に) 省エネ方法論案に対する勧告が完了している旨が報告された。

<スケジュール>

- ・次回第 32 回ベースライン・モニタリング方法論パネル (MP32) : 2008 年 4 月 7 日～11 日

3. (c) 植林・再植林 CDM プロジェクトに関する事項

<植林・再植林 CDM ワーキンググループの報告>

- ・第 18 回植林・再植林 CDM ワーキンググループ (AR WG18) が 2008 年 2 月 11 日～13 日に開催され、AR WG 副議長の Harutyunyan 代理理事⁷が報告を行った。

<新規 AR 方法論>

- ・承認 (1 件)
 - ARNM0032-rev : ““San Carlos” Land Restoration Through Silvopastoral Systems”→ (統合化) AR-ACM0001 : “Afforestation and reforestation of degraded land” (スコープ : 14 (植林・再植林)) < 荒廃地での植林・再植林 > (EB38 報告書 Annex7)

⁷ AR WG 議長の Miguez 氏が公開討議を欠席したため。

- ✓ 尚、上記統合化（AR-AM0003 + ARNM0032-rev）に伴う、AR-AM0003 の撤回（withdraw）は、EB43（2008年10月）にて実施されることとなった。（AR-AM0003 は AR 分野では多くの事業案に適用されている、もしくは適用が予定されている方法論であり、事業者への利便性を考慮し、統合後も AR-AM0003 を適用できるように、撤回の時期を遅らせる判断を下した。⁸⁾

<ガイダンス事項>

- ・大規模及び小規模 AR CDM プロジェクトの土地適格性の証明方法に関して、「植林・再植林プロジェクトの土地適格性の証明手続（“Procedures to demonstrate the eligibility of land for afforestation and reforestation CDM project activities”）」を用いることにより、新規植林と再植林の区別は不要であることが明確化された。
- ・EB36（2007年11月）での要請に基づき、AR CDM プロジェクト活動のプロジェクトバウンダリーの定義付けに関する AR WG の提案について、理事会は検討を行った。理事会は更なる検討を AR WG に要請した⁹⁾。
- ・理事会は、(i)耕作地及び草地のアグロフォレストリー（agroforestry）を含む森林への転換、(ii)耕作地と草地において、森林への転換による砂丘の安定化のそれぞれのタイプのための新たな小規模 AR CDM 簡素化方法論の開発を、AR WG に対して要請した。
- ・AR WG メンバーの公募を実施（公募受付期間：2008年3月19日～4月20日）。次回 EB39（2008年5月）にてメンバーの選考を予定。

<スケジュール>

- ・次回第19回植林・再植林 CDM ワーキンググループ（AR WG19）：2008年4月14日～16日

3. (d) 小規模 CDM プロジェクトに関する事項

<小規模 CDM ワーキンググループの報告>

- ・第14回小規模 CDM ワーキンググループ（SSC WG14）が2008年2月11日～13日に開催され、SSC WG 議長の Raab 理事が報告を行った。

<新規 SSC 方法論>

- ・承認（1件）
 - **AMS II.H：“Energy efficiency measures through centralization of utility provisions of an industrial facility”**（スコープ：4（製造業））<産業施設での公共施設の中央集中化を通じた省エネ手法>（EB38 報告書 [Annex8](#)）

<承認済み SSC 方法論の修正>

- ・修正承認（4件）

⁸⁾ 統合化により、元の方法論が撤回されてから8ヶ月間は元の方法論を用いたプロジェクトは申請することが可能ではあるが、AR 方法論は他の分野の方法論と比べて難解で、事業者の便益を損なうことを懸念する旨の発言が複数の理事からなされ、撤回の時期が検討された。

⁹⁾ 更に柔軟的（flexible）なガイダンスの作成を AR WG に要請する意見が複数の理事からなされた。

- AMS I.C : “Thermal energy for the user with or without electricity” (スコープ : 4 (製造業)) < 利用者のための熱エネルギー > (EB38 報告書 [Annex9](#))
(修正内容 : 適用条件の拡大)
- AMS III.H : “Methane recovery in wastewater treatment” < 廃水処理でのメタン回収 > (EB38 報告書 [Annex10](#))
(修正内容 : 適用条件の拡大)
- AMS III.D : “Methane recovery in animal manure management systems” < 農業・農産業活動におけるメタン回収 > (EB38 報告書 [Annex11](#))
(修正内容 : 排出削減量算定の際の 2006 IPCC ガイドライン使用の明確化)
- AMS III.G : “Landfill Methane Recovery” < 埋立処分場でのメタン回収 > (EB38 報告書 [Annex12](#))
(修正内容 : 排出削減量の事前算定における、埋立処分場ガス回収効率の検討を削除)

< ガイダンス事項 >

- ・ SSC WG メンバー (専門家) 公募を実施 (公募受付期間 : 2008 年 3 月 19 日 ~ 4 月 20 日)。次回 EB39 (2008 年 5 月) にてメンバーの選考を予定。

< スケジュール >

- ・ 次回第 15 回小規模 CDM ワーキンググループ (SSC WG15) : 2008 年 4 月 14 日 ~ 16 日

3. (d) CDM プロジェクトの登録に関する事項

< プロジェクト登録数 >

- ・ 2008 年 3 月 14 日現在、953 件のプロジェクトが登録されている¹⁰。

< プロジェクト登録 >

- ・ 登録承認 : 11 件
 - “Power Generation by Waste Heat Recovery Project in Henglai Building Materials Co. Ltd., Yixing City, Jiangsu Province, P. R. China” (1380) (中国) [TÜV-SÜD]
 - “Jaroensompong Corporation Rachathewa Landfill Gas to Energy Project” (1413) (タイ/日本[三菱 UFJ 証券]) [DNV]
 - “Biomass generation project, in Sheyang county, Jiangsu province, P.R.China” (1366) (中国) [TÜV-SÜD]
 - “Shandong Gaotang 30MW Biomass Power Generation Project” (1375) (中国/英国) [TÜV SÜD]
 - “Yunnan Dali Yang_er 49.8MW Hydropower Project” (1388) (中国/日本[JCF]) [TÜV SÜD]
 - “Jinggangshan 36 MW Hydropower Project” (1400) (中国/オランダ) [BVC]
 - “Steam Optimization in Cooking Process in Paper Plant” (1403) (インド) [DNV]
 - “Carhuaquero IV Hydroelectric Power Plant” (1424) (ペルー/スペイン) [DNV]
 - “Pushihe Erji 10 MW Small Hydropower Project in Yunnan Province” (1430) (中国) [DNV]
 - “Aluhe 12.6 MW Small Hydropower Project in Yunnan Province” (1439) (中国) [DNV]
 - “4.5 MW Wind Power Project in Kadavakallu, Andhra Pradesh” (1131) (インド) [BVC]

¹⁰ CDM プロジェクトの登録状況については UNFCCC ウェブサイト (<http://cdm.unfccc.int/Projects/>) にて閲覧可能。

- 修正条件付登録承認：7件
 - “Someshwara small hydropower project (24.75 MW) in Karnataka, India” (1273) (インド) [DNV]
(条件内容：修正した投資分析を盛り込んだ修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要。)
 - “Fundao-Santa Clara Energetic Complex Project (FSCECP)” (1279) (ブラジル) [BVC]
(条件内容：投資分析を含めたプロジェクト計画前のコストの正確な妥当性確認、プロジェクトの実施・検討に関する詳細なタイムラインを盛り込んだ修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要。)
 - “Fuel switchover from higher carbon intensive fuels to Natural Gas (NG) at Indian Farmers Fertilizer Cooperative Ltd (IFFCO) in Phulpur Village, Allahabad, Uttar Pradesh by M/s Indian Farmers Fertilizer Cooperative Ltd (IFFCO)” (1289) (インド/スペイン) [DNV]
(条件内容：レビュー実施への回答を反映させた修正版 PDD 及び修正版有効化審査報告書の再提出が必要。)
 - ““Waste Heat Recovery project” at Saraikela, Kharsavan, Jharkhand by M/s Kohinoor Steel Private Limited” (1296) (インド) [SGS]
(条件内容：障壁に関する更なる具体化を盛り込んだ修正版 PDD 及び修正版有効化審査報告書の再提出が必要。)
 - “Power generation from waste heat of submerged arc furnaces” (1324) (インド) [TÜV-SÜD]
(条件内容：レビュー実施への回答に関する追加的な証拠資料や説明を反映させた修正版 PDD 及び修正版有効化審査報告書の再提出が必要。)
 - “Zhongzhou 16.5 MW Hydropower Project” (1333) (中国/スウェーデン) [TÜV-SÜD]
(条件内容：IRR 算定に係る入力値の妥当性に関して、DOE によって保証されることが必要。)
 - “5 MW renewable energy project for a grid system at Rohru Tehsil, Shimla District in Himachal, India” (1363) (インド) [DNV]
(条件内容：修正した投資分析を反映させた修正版 PDD 及び修正版有効化審査報告書の再提出が必要。)
- レビュー実施決定：7件
 - “UHE Mascarenhas power upgrading project” (1232) (ブラジル) [SGS] (EB38 報告書 Annex13)
 - “Power generation from waste heat of new DRI kilns at JSPL” (1292) (インド) [BVC] (EB38 報告書 [Annex14](#))
 - “24.75 MW Ranganathaswamy Mini Hydel Project, Karnataka, India” (1345) (インド) [TÜV-NORD] (EB38 報告書 [Annex15](#))
 - “Flare gas recovery project at Hazira Gas Processing Complex (HGPC), Hazira plant, Oil and Natural Gas Corporation (ONGC) Limited” (1354) (インド) [DNV] (EB38 報告書 [Annex16](#))
 - “Koppal Green Power Limited Biomass Power Project” (1383) (インド) [TÜV-Rheinland] (EB38 報告書 [Annex17](#))
 - “Biomass Based Power Project of Balaji Agro Oils Ltd.” (1398) (インド) [SGS] (EB38 報告書 [Annex18](#))
 - “CEMEX Costa Rica: Use of biomass residues in Colorado cement plant” (1405) (コスタリカ) [SGS] (EB38 報告書 [Annex19](#))
- 登録不承認（レビュー実施の結果）：4件
 - “Tradewinds Methane Extraction and Power Generation Project” (1285) (マレーシア/オランダ)

[DNV]

(不承認理由：ベースラインシナリオにおいて、適用方法論 (AMS-II.D. (第 10 版)) がプロジェクト活動に起因する影響を適正にモニタリングすることが十分だとは立証できず、AMS-II.D. (第 10 版) がプロジェクト活動に不適合であるため。)

➤ “Fuel Free Electricity to Grid” (1331) (インド) [BVC]

(不承認理由：プロジェクト活動の追加性、特にベンチマークの適合性について立証できなかったため。)

➤ “Reducing the Average Clinker Content in Cement at CEMEX Mexico Operations” (1356) (メキシコ) [SGS]

(不承認理由：重要かつ追加的技術障壁、及び市場の受容障壁の存在が、ベースラインレベルを超えた形でのブレンドセメント生産における添加物レベルの上昇を引き起こしていること、また、適用方法論 (ACM0005 (第 1 版)) でのリーケージの評価に関して、立証できなかったため。)

➤ “Bundled Wind Power Project of Jelu Special Self-Governing Province in Korea” (1377) (韓国) [KFQ]

(不承認理由：プロジェクト活動の追加性を立証できなかったため。)

< ガイダンス事項 >

- ・登録・発行チーム (RIT) の業務指示 (TOR) 内容の 1 年延長 (～2009 年 3 月 31 日) を決定。
- ・RIT メンバーの公募を実施 (公募受付期間：2008 年 3 月 19 日～4 月 20 日)。次回 EB39 (2008 年 5 月) にてメンバーの選考を予定。
- ・プロジェクト参加者が「フィージビリティスタディー報告書 (Feasibility Study Reports (FSR))」からのデータを用いる場合、担当 DOE が当該内容を保証するよう要請した。
- ・「レビューに関する手続の明確化を記した CDM 手続規則パラグラフ 41 (“Clarifications on the procedures for review referred to in paragraph 41 of the CDM modalities and procedures”) (第 8 版)」を承認。(EB38 報告書 [Annex20](#))
- ・理事会とプロジェクト参加者間の連絡手続 (modalities of communications) の様式の標準化について、理事会は事務局に検討を要請し、次回 EB39 にて検討を行うこととなった。
- ・プロジェクト参加者が登録済みプロジェクトからの撤退 (withdraw) を望む場合の手続について、事務局の取るべき対応について検討を行い、下記事項の実施を事務局に要請した。
 - ✓ UNFCCC CDM ウェブサイトに掲載の登録済みプロジェクト参加者リストの更新
 - ✓ 当該プロジェクトに関わる全ての関係者への通知
 - ✓ 参加の履歴情報を外部から閲覧できるよう保守を行う

3. (e) CER 発行及び CDM 登録簿 (レジストリ) に関する事項

< CER 発行数 >

- ・2008 年 3 月 14 日現在、128,481,895CERs が発行されている。¹¹

¹¹ CER 発行状況については UNFCCC ウェブサイト (<http://cdm.unfccc.int/Issuance/>) にて閲覧可能。

<CER 発行>

<CER 発行申請・レビュー要請案件（4 桁の数値はプロジェクト参照番号）（ホスト国／投資国） [] 内は担当 DOE>

・発行承認：16 件

- “RSCL cogeneration expansion project” (0127) (インド/オーストリア・英国) [SGS]
- “Quimobásicos HFC Recovery and Decomposition Project” (0151) (メキシコ/日本[電源開発]・オランダ・英国) [TÜV-SÜD]
- “HFC23 Decomposition Project of Zhejiang Juhua Co.,Ltd, P. R. China” (0193) (中国/日本) [JMD 温暖化ガス削減、日揮、丸紅、大旺建設] [SGS]
- “AWMS GHG Mitigation Project, MX05-B-12, Sonora, México” (0204) (メキシコ) [DNV]
- “AWMS GHG Mitigation Project, MX05-B-14, Jalisco, México” (0257) (メキシコ) [DNV]
- “Nueva Aldea Biomass Power Plant Phase 1” (0258) (チリ/日本[東京電力]・英国) [SGS]
- “Trupan Biomass Power Plant in Chile” (0259) (チリ/日本[東京電力]・英国) [SGS]
- “LDEO Biomass Steam and Power Plant in Malaysia”(0395) (マレーシア/カナダ・ドイツ) [DNV]
- “Demand side energy conservation & reduction measures at IPCL . Gandhar Complex” (0445) (インド) [DNV]
- “Jilin Taonan Wind Power Project” (0599) (中国/オーストリア) [SGS]
- “HFC23 Decomposition Project at Zhonghao Chenguang Research Institute of Chemical Industry, Zigong, SiChuan Province, China” (0767) (中国/イタリア) [DNV]
- “Zhongjieneng Suqian 2*12MW Biomass Direct Burning Power Plant Project” (0819) (中国/スイス・スウェーデン・英国) [SGS]
- “Incomex Hydroelectric Project” (0968) (ブラジル/英国) [DNV]
- “CAMIL Itaquí Biomass Electricity Generation Project” (0231) (ブラジル/オランダ・ドイツ) [TÜV-SÜD]
- “15.4 MW wind farm at Satara District, Maharashtra” (0593) (インド/英国) [DNV]
- “Sahabat Empty Fruit Bunch Biomass Project” (0288) (マレーシア/英国) [SGS]

・レビュー実施決定：1 件

- “Onyx Alexandria Landfill Gas Capture and Flaring Project” (0508) (エジプト/スペイン・フランス) [TÜV-SÜD]

・現在検証作業中のモニタリング報告書に関して、理事会は 6 件の逸脱 (deviation) 要請を検討し、検討結果を当該 DOE に回答するよう、事務局に要請した。

<ガイダンスに関する事項>

- ・「レビューに関する手続きの明確化を記した CDM 手続規則パラグラフ 65 (“Clarifications on the procedures for review referred to in paragraph 65 of the CDM modalities and procedures”) (第 5 版)」を承認。(EB38 報告書 [Annex22](#))

4. CDM 管理計画及び予算に関する事項**<CDM 管理計画>**

- ・理事会は、事務局の行政監督強化のための提案を承認し、事務局に提案の実施を要請した。2008年度 CDM 管理計画 (CDM MAP 2008) (第1版) に、必要な追加費用等も反映させるよう、事務局に修正要請した。

<予算>

- ・ CDM MAP 2008 の実施に関して、1,070 万米ドルの資金が用意されており、うち約 50%が 2008 年の CDM に関する費用として支出される見込みとなっている。(予算の詳細については、EB38 報告書 [Annex23](#) を参照のこと。)

5. その他

5. (a) プロジェクトの地域分布

- ・理事会はプロジェクトの地域的偏在に関する取り組みについての状況について、特にナイロビフレームワークの実施に関する進捗状況について、事務局からの報告を受けた。理事会は、国家レベルでの具体的ニーズに対応可能な資金源の必要性等、刷新的なアプローチの必要性を認識した。
- ・また、理事会は、CDM プロジェクトの地域的偏在の改善に向けた知識や経験の共有といった役割を担うことができること等、議論を行った¹²。

5. (b) DNA との関係

- ・事務局より、次回の DNA フォーラムが、2008 年 4 月 14 日～15 日にドイツ・ボンで開催される旨が報告された。また、同時期に CDM ジョイントワークショップ (the annual CDM Joint Coordination Workshop) を開催することも合わせて報告された。

5. (c) DOE/AE との関係

- ・理事会は、DOE/AE コーディネーションフォーラム議長 Flavio Gomes 氏 (BVC¹³) を招聘し、DOE/AE の見解等について、報告を受けた。
- ・中国での CDM プロジェクト活動における投資分析の入力値の評価について、理事会での検討を求める要請が DOE/AE から寄せられていることを紹介し、理事会にガイダンスの作成を要請した。理事会は、この対応を含め、理事会とプロジェクト参加者間の連絡手段 (modalities of communications)

¹² Djemouai 代理理事 (アルジェリア) からは、アフリカ地域でプロジェクトが進まない要因の一つとして、言語の障壁があることを議論の中で提起した。今年 9 月にセネガル・ダカルにて開催が予定されているアフリカカーボンフォーラムでは、英仏の同時通訳を用意して欲しい、また、EB 報告書を含めた重要な文書を国連公用語 (英、仏、西、中、露、アラビア語) に翻訳し、ウェブに掲載する等の措置を講じて欲しいと事務局に要請した。これに対し、事務局からはアフリカカーボンフォーラムでは仏語圏の国にも配慮する形で進めていきたい、との回答が寄せられた。(関連文書を全国連公用語に翻訳する件については、現実的ではない、との考えを示した。)

¹³ Bureau Veritas Certification, Holding S.A. (英国) (旧 BVQI)

の様式の標準化について、今後検討を行うことを通知した。

- ・理事会は、DOE によって有効化審査されたものの、その結果によって、プロジェクトの登録申請が理事会に提出されていない件数についての報告を受けた。DOE/AE コーディネーションフォーラムでは、有効化審査過程で否定された案件（登録申請されない案件）の背景や理由について、把握を進めており、また、現在 5 つの主要な DOE が全案件の 91%にあたる数の有効化審査を担当している状態であること等が合わせて報告された。そして、現在登録申請案件のうち、登録承認が約 68%となっている状況を一刻も早く 100%に引き上げたい旨の発言もなされた。¹⁴

5. (d) 利害関係者・各国・NGO との関係

- ・3月14日（EB38 最終日）午後、理事会とオブザーバーとの間で質疑応答セッションが行われた。
- ・次回 EB39 オブザーバー出席¹⁵申込締切：2008 年 4 月 23 日（17：00 GMT）

5. (f) その他

<パブリックコメント>

- ・DOE/AE、他一般から以下のコメントが理事会宛に送付され、非公開討議にて取り上げられた。（公開討議では審議せず。）

(a)	<u>Chaim Nissim 氏 (Noe21) :</u> AM0001 の修正要請について（2007 年 12 月 10 日受領）
(b)	<u>In Park 氏 (LG Chem 環境・安全チーム) 及び波多野順治氏 (三菱 UFJ 証券 クリーン・エネルギーファイナンス委員長) :</u> LG Chem Naju plant fuel switching project (1185) について（2008 年 1 月 7 日受領）
(c)	<u>Ricardo Esparta 氏 (Ecoinvest) :</u> EB34 での“Pão de Açúcar - Demand side electricity management”(ブラジル) (0988、1023、1030、1050、1055、1057、1058、1060) の登録不承認決定に対する再検討の要請について（2008 年 1 月 15 日受領）
(d)	<u>Anne Arquit Niederberger 氏 (Policy Solutions) :</u> 理事会（EB35）の“M/S. Kothari Sugars and Chemicals Ltd (KSCL)’s Bagasse Based Co-generation Project, at Perambalur district, Tamil Nadu, India” (1109) の登録不承認決定に対する申し立てについて（2008 年 1 月 18 日受領）

¹⁴ Gomes 氏の報告を受け、理事からは有効化審査の段階で、プロジェクト化を否定された案件についての費用に関する問い合わせがなされた。これに対し、有効化審査の結果を問わず、費用を徴収している旨の回答が Gomes 氏よりなされた。また、プロジェクト参加者にとって、有効化審査過程はボトルネックとなっており、DOE フォーラム等で改善のための努力を行って欲しい、との意見も Gomes 氏に対してなされた。

¹⁵ Lu 代理理事は事務局に対して、EB メンバーのみならず、EB へのオブザーバーに対しても、（UNFCCC 事務局のある）ドイツ入国のビザの手配を支援する等、EB 出席に必要な措置を取るよう要請した。事務局からは善処する旨の回答が寄せられた。

(e)	<u>B.H. Kothari 氏 (KSCL 会長)</u> : 理事会 (EB35) の“M/S. Kothari Sugars and Chemicals Ltd (KSCL)’s Bagasse Based Co-generation Project, at Perambalur district, Tamil Nadu, India” (1109) の登録不承認決定に対する申し立てについて (2008年1月21日受領)
(f)	<u>Barbara Haya 氏 (International Rivers コンサルタント)</u> : プロジェクト登録申請中の“Jorethang Loop Hydroelectric Project, India” (1326) に関する見直し (review) について (2008年1月22日受領)
(g)	<u>Giorgi Tabuashvili 氏 (Georgian Oil and Gas Corporation 財務部長)</u> : NM0242 「天然ガスパイプラインからのメタン漏洩削減」に関する MP の規定について (2008年1月24日受領)
(h)	<u>Paul Kirai 氏 (Environmental Cost Management (ECM) Centre Ltd. 事務局長)</u> : 小規模CDMプロジェクト方法論新規カテゴリーSSC_140 (Demand-side programs to promote high-efficiency electrical end-use technologies using deemed savings) に関して (2008年1月24日受領)
(i)	<u>Himanshu Thakkar 氏 (South Asia Network on Dams, Rivers & People)</u> : プロジェクト登録申請中の“Jorethang Loop Hydroelectric Project, India” (1326) に関するコメントについて (2007年1月24日受領)
(j)	<u>Mehraz Raft 氏 (Agrenco Group CDM マネジャー) 及び Urs Brodmann 氏 (Factor Consulting)</u> : NM0228 「AGRENCO バイオディーゼルプロジェクト」 ¹⁶ 及び種子油からのバイオディーゼル生産について (2008年2月19日受領)
(k)	<u>Tatiana Boldyreva 氏 (Tricorona AB (Publ.))</u> : AM0009 「フレア処理されている油井ガス回収・利用」の改訂について (2008年2月19日受領)
(l)	<u>Jesus Casas Marin 氏 (Endesa, S.A.)</u> : Central American Regional Transmission Grid main line –SIEPAC のプロジェクト建設について (2008年2月20日受領)
(m)	<u>Ferdinand Heilig 氏 (Carbon Climate Protection GmbH)</u> : 2007年9月に CARBON より提出された承認済み方法論 AM0028 への修正要請に対する方法論パネルの勧告 (AM_REV_0067) に対する意見について (2008年2月27日受領)

<次回理事会開催スケジュール>

- ・次回 EB39 は 2008年5月14日～16日に、ドイツ・ボン (UNFCCC 事務局) にて開催の予定。(EB39 議題案 : EB38 報告書 [Annex24](#)) (非公開討議 : 5月14日、公開討議 : 5月15日～16日)

<2008年度理事会、パネル・ワーキンググループ開催スケジュール>

- ・2008年度の理事会開催スケジュールは以下の通り。(EB37 報告書 [Annex25](#))

EB	日程 (2008年)	場所・備考
EB39	5月14日～16日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB40	6月15日～17日	ボン (UNFCCC 事務局) <SB との共催>
EB41	7月30日～8月1日	ボン (UNFCCC 事務局)

¹⁶ NM0228 は AM0047 へ組み込まれる形で、EB35 にて提案されている (まだ承認されていない)。

EB42	9月24日～26日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB43	10月22日～24日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB44	11月26日～28日	未定 <COP/MOP4 との共催>

- ・2008年度の方法論パネル (MP)、植林・再植林ワーキンググループ (AR WG)、小規模ワーキンググループ (SSC WG)、認定パネル (AP) の開催スケジュールは以下の通り。

MP	日程 (2008年)	場所・備考
MP32	4月7日～11日	ボン
MP33	6月23日～27日	ボン
MP34	8月25日～29日	ボン
MP35	11月3日～7日	ボン

AR WG	日程 (2008年)	場所・備考
ARWG19	4月14日～16日	ボン
ARWG20	6月18日～20日	ボン
ARWG21	9月1日～3日	ボン
ARWG22	11月10日～12日	ボン

SSC WG	日程 (2008年)	場所・備考
SSCWG15	4月14日～16日	ボン
SSCWG16	6月18日～20日	ボン
SSCWG17	9月1日～3日	ボン
SSCWG18	11月10日～12日	ボン

AP	日程 (2008年)	場所・備考
AP34	4月14日～16日	ボン
AP35	5月21日～23日	ボン
AP36	7月14日～16日	ボン
AP37	8月27日～29日	ボン
AP38	9月30日～10月2日	ボン
AP39	11月5日～7日	ボン

6. 閉会

QA セッション

- ・3月14日午後、理事会とオブザーバーとの間で質疑応答セッションが行われた。主な討議内容は以下の通り。

Q1 (IETA)

SF6 に関する新規方法論ガイドラインについて、ガイドラインで規定している直接モニタリング手法はコストがかかり、複雑であるため、事業者にとって適用が容易ではないと思われる。再検討して欲

しい。

A1（黒木理事）

直接モニタリング手法はあくまでも原則であり、それよりもシンプル且つ保守的に見積もることが可能であれば、新たな手法を提案・証明して欲しい。

Q2（IETA）

「有効化審査・検証マニュアル（VVM）」作成プロセスにおいて、関係者（stakeholders）からの情報や意見を取り入れながら進めていくという方針は歓迎したいが、VVM 草案はどのようにして入手できるのか？ UNFCCC-CDM ウェブサイトをチェックしても掲載されていない。コメントしたくても情報が入手できずにいる。

A2（de Jonge 副議長）

VVM 草案は近日中に公表となる予定である。尚、DOE/AE コーディネーションフォーラムは非公開で開催されているが、外部からのコメントは受け付けている。

Q3（研究機関）

EU として、CDM 以外のスキームに適用させるための省エネ方法論を現在開発している。これらの省エネ方法論については、CDM にも生かせる要素があるので、参考となると考えられる。

A3（Sethi 議長）

そのような情報提供は、EB に有益であり、歓迎したい。

Q4（世銀）

NM0249（“Reduction in Emissions in the Manufacture of Phosphogypsum-based Gypcrete Wall Panel by Gypcrete Building India Ltd. (GBIL)”）が方法論パネルでは、不承認判定と勧告されていたが、再検討となった理由は？

A4（黒木理事）

外部の専門家からの指摘を受け、NM0249 は今後デスクレビューを実施することとなった。

<以下、オブザーバーに対するコメント>

C1（de Jonge 副議長）

理事会としては、議論の透明性を確保するよう努めてきている。昨年より、理事会開催にあたって、非公開討議を3日間設けた後に、公開討議を2日間設けているが、我々は非公開討議での議論を充実させ、2日間の公開討議中には極力非公開での討議を避け、議論の透明性を確保するよう努めている。

C2（Sethi 議長）

プロジェクトの登録に関する事項等については、非公開の場で議論せざるを得ないこと等を理解して欲しい。

以上

（文責：家本 了誌）